Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

# Gram-negative rod bacteremia after cardiovascular surgery: Clinical features and prognostic factors



| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2016-11-25<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 田子, さやか<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/10470/31559 |

様式（6）

# 学　位　審　査

| 学　位　番　号 | 乙 第 2895 号 | 氏　　名 | 田子　さやか |
|---|---|---|---|
| 審　査　委　員　会 | 主　査　教　授 | 山崎　健二 | |

論文審査の要旨（400 字以内）

本研究では、東京女子医科大学病院において、過去 10 年間に心臓血管手術後 100 日以内にグラム陰性桿菌による菌血症を発症した成人を対象とし解析を行っている。2, 017 人中 78 人がグラム陰性桿菌による菌血症を発症し、人工血管置換術後が多いこと、菌種は *Klebsiella*、*Pseudomonas aeruginosa*、*Enterobacter*、*Escherichia coli* が多かったと報告している。90 日死亡率は 21.8%であり、術後 6 日以内にグラム陰性桿菌菌血症を発症した患者は生存群で 23.1%に対し死亡群で 47.1%であり、グラム陰性桿菌による菌血症が予後に重大な影響を及ぼすことを明らかにした。多変量解析では、*P. aeruginosa* 菌血症 (odds ratio [OR] 175)、APACHE II スコア ≧25 (OR 76.2)、予防的抗菌薬バンコマイシン (OR 45.4) が心臓血管手術後のグラム陰性桿菌菌血症による死亡の有意な予後不良因子であることを知見として報告している。

これまで心臓術後の感染症予防・治療においてはグラム陽性球菌を主体に重きが置かれていたが、本研究ではグラム陰性桿菌菌血症が生命予後に重大なインパクトを与えることを明らかにし、今後心臓血管外科手術後の成績向上の治療戦略上で示唆に富んだ意義ある研究である。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]